

日本共産党区議会議員
Japanese Communist Party

安藤たい作

区政報告 ニュース 第23号

茅ヶ崎市立・浜之郷小学校の視察レポート

子どもの学ぶ権利を一人残らず 保障する浜之郷スタイルに学べ!



42人の区議と理事者が一同に会する予算特別委員会が始まりました。区議補選で当選後すぐ、同様の決算特別委員会に放り込まれ、右も左も分からずに質問したことを思い出します。それから5ヶ月弱。持てる力を出し切るとにかく精一杯論戦したいと思います。



漫画：安藤たい作

(前号の続き) 共に文教委員である私(安藤)と沢田区議は、一般質問に先立って2月9日、神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校を視察しました。

子ども同士での「学びの共同体」

この4月で創立10周年を迎える浜之郷小。開校当時から、東大教授で日本教育学会会長の佐藤学氏の指導を受け「学び合いの教育」を実践。OECD国際学力テストで二回連続トップとなったフィンランドもいち早く取り入れている教育実践です。まず目を引くのが、独特の机の並べ方による4人のグループ学習の形態です(漫画)。佐藤氏は「先生一人の力には限界がある。子ども同士で聞きあい学びあう関係が学力向上の決め手となる」と言います。品川では習熟度別学習を取り入れ、成績の程度によりグループ分けをしています。ここではむしろ成績上位の子も下位の子も関係なく編成され、学び合いながら高いレベルの課題に挑戦していきます。「全て」の子どもにも高いレベルの学びに挑戦する機会が保障されているのです。

教師同士の「学びの共同体」も

「学校の外に公開するという発想ではなく内に向かって開く」という公開授業研究は、月に一度。一日2本の授業を、他の「全て」の先生が参観します。その後①上手い下手は問わない②「自分だったらこうする」という事も言わない、というルールで、あくまで「学びがどこで成立していたのか・どこでつまづいたのか」という事実を、全員の目ですりあわせます。教師にもまた、一人残らずその専門性を高める機会が保障されています。

対極にある品川の競争教育

「子どもたちの学ぶ権利を一人残らず保障する」という教育目標に向かい、子どもも教師も一丸となって共同する「浜之郷スタイル」。私は本当の教育改革を見る思いでした。品川の「競争至上主義スタイル」は、残念ながら対極にあると言わざるをえません。

安藤たい作プロフィール '74年 宮城県仙台市生まれ33歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

安藤たい作ニュース は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。